



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 井上 富雄  
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000  
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



### 学生の臨床能力の向上を目指して

歯学部長 宮崎 隆

本年の1月30日に、文科省の「歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議」から、第1次報告「確かな臨床能力を備えた歯科医師養成方策」が公表されました。この中で、1) 歯科医師として必要な臨床能力の確保, 2) 優れた歯科医師を養成する体系的な歯学教育の実施, 3) 歯科医師の社会的需要を見据えた優れた入学者の確保, 4) 未来の歯科医療を拓く研究者の養成の4項目について、改善方策が示されています。そして、3月に引き続き7月に、各大学が個別に文科省に召集されて、本報告書に関する各大学の現状や改善への取り組みに関するヒアリングを受けました。

本歯学部ではこれまで教育改革に真摯に取り組み、富士吉田校舎における初年次全寮制教育と継続的な4学部横断カリキュラム等による将来のチーム医療を目標にした教育、社会と歯科医療コースにおける地域連携教育、問題解決能力と生涯学び続ける能力を養うための問題基盤型学習(PBL)の導入など、他大学に無い特徴的な教育を推進し、成果をあげてきました。今後も教育点検委員会で恒常的にカリキュラムの点検を行い、引き続きカリキュラム改革を推進いたします。

一方、学生の臨床能力の確保については、報告書とヒアリングで、診療参加型臨床実習の推進と臨床能力の評価方法の充実が強く求められました。次年度の臨床実習は、長谷川歯学教育研修センター長に全体のコーディネートをお願いして、卒後研修に連続・整合する診療参加型臨床実習を推進すべく、現在4グループを編成して準備を進めています。また、夏のワークショップで議論しましたが、本学学生が卒業時にアウトカムとして獲得する臨床技能と態度(プロフェッショナリズム)に関するコンピテンシーを完成させます。そして、来年3月に予定している「臨床実習終了時 OSCE」については、文科省や国内外の大学からも注目されていますので、ぜひとも成功させて、次年度の臨床実習のさらなる改善・充実に結び付けたいと思います。

コミュニケーション能力を含む臨床技能と態度は、一朝一夕で獲得できるものではなく、6年間を継続して積み上げていく必要があります。今年は、1年次の早期体験実習の一部で、開業歯科医院の体験実習を成功裏に実施しました。2年次の臨床入門、3年次

の歯科診療の基本、各学年の各ユニットに分散しているコミュニケーション教育を含めて、学生が一歩一歩将来の医療人を目指して成長できるように、各教員のご理解とご支援を宜しくお願い申し上げます。

### D1 早期体験実習が実施されました

口腔解剖学教室 柳澤 伸彰



平成21年度富士吉田教育学部の早期体験実習が、8月31日～9月18日に実施されました。その期間中に4学部共通の実習としてグループ学習、高齢者疑似体験実習、病院実習、福祉等施設見学実習と救急・心肺蘇生講習が行われ、学部別ではそれぞれの学部ごとに実習が行われました。

学部別実習(3日間)では、1日目に歯科ユニットの構造と操作や手指の消毒法などについて歯科ガイダンスおよび総論の講義、および手洗い実習と歯科医院患者導入ロールプレイの実習が行われました。2日目には、富士吉田市を中心に周辺地域のご協力をしてくださいました歯科医院(26か所)に各2名の学生がそれぞれ赴き見学実習が行われました。3日目には、これまでの実習での体験や問題点への対応などについてSGD(スモールグループ・ディスカッション)および実習報告会が行われました。このような早期体験実習が、学生にとって医療人を目指す第一歩を踏み出す素晴らしい経験になったことと思います。最後になりましたが、早期体験実習実施にあたり、ご協力をいただきました多くの先生方、また関係者の皆様にこの場をお借りして深く御礼申し上げます。



## 昭和大学での選択実習に参加して

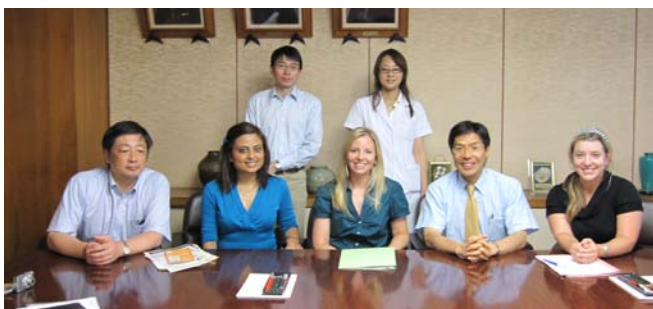
USC学生 Jill Tetrick, Tracy D'Antonio,  
Payal Dholakiya

Before we embarked on our final year of dental school at USC, we were given the opportunity to visit Showa University School of Dentistry. After a long day of travel, we were immediately greeted by what we came to know as Japanese hospitality. The apartments that were provided to us were wonderful and gave us a home away from home.

During our two week stay at Showa, we were given a glimpse of the life of a Japanese dental student. We visited the university and were introduced to many professors and the research projects that are currently underway. We can see the value of the research being done at Showa and how it will affect the future of dentistry as a profession. We were also given a lesson in head and neck anatomy, where we were very impressed by the precise dissections.

In addition, we visited various departments at the dental hospital. There we compared and contrasted the different materials and methods used in the U.S. and Japan with many professors and students. We were given the opportunity to observe how each of the clinics are run and to see the technology that is used on a daily basis. One marked difference that we noticed and thought was very interesting was that in Japan, dentists are able to treat patients with dysphagia. In the U.S., those patients are generally seen by speech pathologists and ear, nose and throat physicians.

Beyond the dental aspect of our trip, we were overwhelmed with kindness and generosity by all of our many hosts. Whether it be taking us to lunch, dinner or around the city, the students and faculty introduced us to Japanese culture as we would have not been able to experience on our own. One highlight of our cultural exchange was the international student presentations, where we shared common experiences in dental outreach projects. We are very thankful for our time here and we leave with a better appreciation for dentistry on a global scale. We hope to see some students from Showa University at USC next spring, and look forward to sharing our own culture with them.



## 平成22年度昭和大学歯科病院臨床 研修歯科医採用試験

歯学教育研修センター 長谷川 篤司



去る9月5日(土)平成22年度臨床研修歯科医採用試験が旗の台校舎にて実施されました。母校を含めた全国19校から279名の受験者が集まり、募集総数100名の狭き門を競いました。採用試験として面接試験と学識試験が採用され、5号館(面接試験)と2号館(学識試験)の2会場で実施しました。面接試験では歯科病院各診療科の指導医24名が受験生の志願理由や抱負を聴き、学識試験では一般常識



問題35題と歯科学学科学科試験65題をMCQで出題しました。結果はマッチング協議会から10月27日にマッチング結果として発表されます。

## 薬学部ワークショップ参加報告

口腔衛生学教室 向井 美恵

8月21日から3日間、富士吉田キャンパスで薬学部の学生のキャリア支援を中心にしたWSが開催されました。その第6グループに医・歯・薬・保健医療の各学部から2名ずつの参加者によって「昭和大学の体系的なチーム医療学習」をテーマにしたWSがなされ、歯学部は佐藤教授と向井が参加者として、片岡歯科医学教育推進室長がファシリテータとして参加しました。今回は、4年次必修の「チーム医療実践の基礎を構築する—学部連携型PBLチュートリアル・病棟シミュレーション実習」、5年次必修の「病院で患者中心のチーム医療を実践する—学部連携病棟実習」、6年次の選択実習として「高度な専門性に基づくチーム医療を実践する—専門領域別アドバンス実習」、同6年次選択の「地域社会で患者中心のチーム医療を実践する—学部連携地域医療実習」の4課題についてのWSでした。既に実施中の3年次までの学部連携型のPBLチュートリアルに続くカリキュラムとして、全体像から4年次以降を構築しようとするものです。時間的な制約から5年次の「学部連携病棟実習」が中心となり、実習のGIO、SBOsはもとより、方略として、実施病院と病棟選択、学部間の日程調整、人的資源の確保などが討議されました。学部間共通のプロジェクトとして各学部を持ち帰り実施に向けて討議する種を生み出すことができました。

## PBL チュートリアル ファシリテータ 養成・シナリオ作成ワークショップに参加して

歯科薬理学教室 唐川 亜希子



8月25日、26日に富士吉田教育部にて開催された第5回 PBL チュートリアル ファシリテータ養成・シナリオ作成ワークショップに参加しました。全56名のうち歯学部からは10名が参加し、「昭和大学の教育の特徴とPBLチュートリアルの意義」を再確認する全体セッションからワークショップが始まりました。ビギナーを対象としたファシリテータ養成コースでは、初年次教育で使用しているシナリオを軸に体験PBLチュートリアルが行われました。今回が初の試みとなったアドバンスドファシリテータ養成コースの富士吉田教育部専任教員がビギナーコースのファシリテータとして参加し、現行のPBL教育の実際を学部⇄富士吉田教育部間で検討する場面も見られました。2日目にはシナリオ作成コースが作成した「人間の価値」「医療人としての自覚」に関するシナリオに全員一丸となって取り組み、医系総合大学の初年次教育にふさわしい内容とすべく、テーマからシナリオ細部に至るまで、熱い討議が交わされました。タイトなスケジュールの中、最後まで参加者の集中力と熱気が持続した、密度の濃い有意義なワークショップでした。

## 歯学部オープンキャンパス

入試常任委員 山本 松男

平成21年8月1日(土)、8月22日(土)に歯学部進学相談会の一環として洗足・歯科病院において歯学部進学希望者およびご父兄の方々を対象としたオープンキャンパスが行われました。昨秋からの世界的な経済混乱があったにもかかわらず昨年よりも多くの方の参加をいただきました。全体説明として歯学部長からの歯科界を取り巻く昨今の状況の説明と今後の昭和歯学教育の方向性を含めた挨拶の後、昭和大学や歯学教育の特徴、入試についての説明がありました。歯学部OBからの励ましの声として、村岡正



弘先生(4期生、上野開業、8月1日)と高橋奈里先生(17期生、元住吉開業、8月22日)とからそれぞれ昭和大学を卒業した後の

歯科医療への取り組みを熱く、そして深い思いとともに語って頂きました。現在の歯科病院の様子や臨床の場の紹介として、「美しく健康な口もと」(真鍋厚史教授・美容歯科)、「歯科診療、口腔ケアと地域連携について」佐野晴男教授(総合歯科)・向井美恵教授(口腔衛生学)、「チーム医療、からだの病気」高橋浩二教授(口腔リハ)、「最新歯科医療の実際」尾関雅彦准教授・代田達夫准教授(インプラントセンター)について3階4階のフロアーに分かれて参加者に熱弁をふるって頂きました。誘導係に在校生・卒業生も加わり、歯科業界を目指す高校生に昭和大学のメッセージを伝えることができたものと思います。

## スチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラムに参加して

歯学部4年生 船登 咲映

平成21年8月26日に行われた、日本歯科医師会／デンツプライ主催の第15回スチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラム(SCRP)日本代表選抜大会に参加しました。本大会は歯科学生による研究の実践発表を目的とするもので、全国の歯科大学／歯学部から22校が参加しました。



研究テーマは、「骨芽細胞分化に関与する遺伝子の同定」です。英語でのポスター発表ということもあり、本番前には研究を実施した口腔生化学教室に通い、練習を繰り返しました。本番当日の午前中に、審査員の先生の前で3回発表を行いました。足が震えるくらい緊張しましたが、普段の練習を思い出しながら、無事に発表することができました。また、午後からの一般公開では、多くの方々が熱心に話を聞いてディスカッションをしてくださいました。

学生のうちに英語でポスター発表をする機会は稀で、とても貴重な体験となりました。また、学年を超えた他大学の友人もでき、お互いの研究内容を話し合ったことも思い出の一つです。益々研究に対する興味や、国際的な歯科医師になれるように勉強する意欲が湧きました。今回の経験を将来、歯科医師になった時に生かして行こうと考えています。

このような素晴らしい機会を与えてくださった上條竜太郎教授、山田篤先生、多くの先生方、応援してくれた友人にこの場を借りて深く感謝申し上げます。

## 愛南町フォーラムが開催されました

顎口腔疾患制御外科学教室 新谷 悟



去る8月22日、愛媛県南宇和郡愛南町(人口約2万5000人の町)において、

昭和大学歯学部主催で、愛南町町民フォーラム「口から健康を考える」が行われました。

地方から歯科医療を活性化し、歯科医療の地域偏在を解消するという目的で行われた初めての試みであり、どれだけの聴衆が集まってくれるか不安でしたが、会場の愛南町御荘文化センターに町民約400人が集まってくれました。歯の病気や予防法、最新のインプラント治療などを紹介することができ、成功裏にフォーラムを終えることができました。具体的には「実験では歯のないマウスの学習能力が低い」などデータを紹介することで噛むことの大切さを伝えたり、口の中にできる病気を紹介し、予防のために定期的に近くの専門医に診てもらうことの重要性を伝えたりすることができました。講演の最後には町民有志参加のパネルディスカッションも行い、さらに無料検診・相談も実施しました。相談には30名を越す方々が壇上に上がって来られ、「講演はスライドで分かりやすかった。無料検診などを含めまた開いて欲しい」などのご意見を多数いただきました。「歯科医師として社会に還元できることがまだまだある」というある種の感動と「医の原点」を再認識することができました。

当初、予定されていたD5学生の参加がインフルエンザの影響で中止になったことは、本当に残念でした。最後になりましたが当フォーラムにご支援いただきました関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。



## 国際歯科補綴学会 (ICP) 参加発表

歯科補綴学教室 馬場 一美

9月10日-13日の期間、南アフリカのケープタウンで行われた、第13回国際歯科補綴学会に参加してきました。昭和大学からは高齢者歯科学教室の佐藤教授、大学院生の奥山さん、歯科補綴学教室から私と、共同研究を行っている薬学部・神経薬理学教室(木内教授)の大学院生安藤さん、東京医科歯科大学大学院生の安部さんが出席し、奥山さんと安部さんがポスター発表を行いました。学会はインプラント

補綴、審美補綴を中心とした研究成果の発表とこれらの領域の第一人者の講演で構成されていました。Keynote PresentationではUCLAの小川先生が、チタン表面の紫外線照射処理によるオッセオインテグレーションの促進について講演され、大きな注目を集めていました。彼の研究室へは当教室の岩佐講師が留学中であり、大学院生の宮内君が共同研究を行っています。

ご存じのように南アフリカは2010年にFIFAワールドカップを主催する予定です。それに備えてケープタウンでも、準決勝に使用されるスタジアムをはじめとしたインフラの整備が急ピッチで進められています。気候は穏やかで、美しい自然に囲まれた土地ですので、これらの整備が順調に進み、安全面でも改善されればすばらしい街になることでしょう。



本学会には、パーティーやワイナリーへのExcursion等の企画も盛り込まれており、学術交流のみならず、ワイン片手に個人的

な親交を深めることができ、非常に有意義で楽しいひとときを過ごすことができました。

## 診療統計(平成21年8月分)

医事課長 久米 徳明

	患者数	1日平均	前月1日平均	前年1日平均
外来患者	18,114	696.7	757.0	665.4
入院患者	540	17.4	13.2	16.8

## 行事予定

広報委員長 井上 富雄

- 10月 9日-11日:旗が岡祭、いぶき祭
- 10月17日(土):富士吉田父兄会
- 10月20日(火):解剖慰霊祭
- 10月24日(土):父兄会秋期部会
- 10月27日(火):臨床研修マッチング結果発表
- 11月 2日(月):創立記念日代休
- 11月 7日(土):歯科病院公開講座
- 11月 8日(日):推薦入試

## 編集後記

歯周病学教室 小林 誠

ある著名人は、改革を行うにあたり重要なことは、状況分析能力、柔軟な思考、行動力だと言っています。でも、その根底にあるのは、高い志と情熱であると感じる今日この頃です。